

ニュージーランドの金利引き下げについて

2015年7月23日

7月23日(現地時間)、ニュージーランド準備銀行(中央銀行)は、6月に続き政策金利を0.25%引き下げ、3.00%にすることを決定しました。先月の利下げは予想に反するものでしたが、今回は事前の予想でも広く追加利下げが見込まれていたこともあり、ニュージーランド・ドルは反発し、会合直前の81円台半ばから82円台前半まで上昇しています。

《金利引き下げ決定に至った経緯について》

追加利下げに至った背景としては、引き続き、低水準の物価に加え、景気回復の勢いが鈍化していることがあげられます。今年第2四半期の消費者物価指数は、前期比+0.4%、前年同期比+0.3%と前期比では事前の予想を下回っており、前年同期比でも中央銀行のターゲットを大幅に下回っています。

中央銀行は物価の低迷に懸念を示しており、「6月時点と比較しても景気見通しは弱い」「商品価格が低位であることから更なる通貨安が必要」とコメントしています。コメントに示されている通り、ニュージーランドの主要輸出品目である乳製品価格などの下落には歯止めがかからず、また現在の為替水準は依然として過大評価されているとの見方から通貨安を志向しており、今回の利下げに至りました。なお、コメントでは「更なる緩和が好ましい」との認識も示されており、通貨安志向を維持しています。

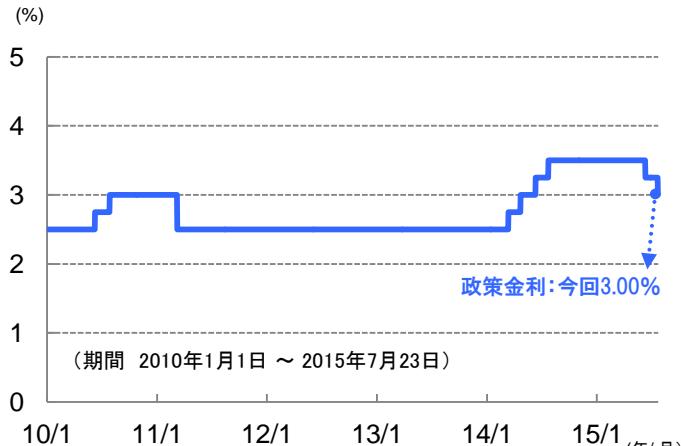
《今後の景気、為替レートについて》

ニュージーランドでは、このところ景気回復の勢いが鈍化してきています。第1四半期のGDPは前期比+0.2%、前年同期比+2.6%と事前の予想を大幅に下回ったほか、昨年第4四半期から大きく減速することとなりました。また、ニュージーランド経済研究所が発表した第2四半期の企業景況感は3年ぶりの水準に低下し、大手民間銀行の6月の調査では2011年来のマイナス水準にまで下落しています。7月の消費者信頼感も3年ぶりの水準に低下するなど、第2四半期以降も景気は鈍化傾向を続けていくことが示されています。

足元の中国景気の低迷や資源価格の下落といった要因に加え、乳製品価格の下落や物価の低迷、景気減速による追加利下げ観測など、ニュージーランド・ドルは当面減価圧力がかかりやすい状況が続きそうです。一方で、住宅関連指標は堅調さを持続しており、移民の流入も高水準で推移しているため、これまでの通貨安や金融緩和なども徐々に景気をサポートしていくものとみられます。

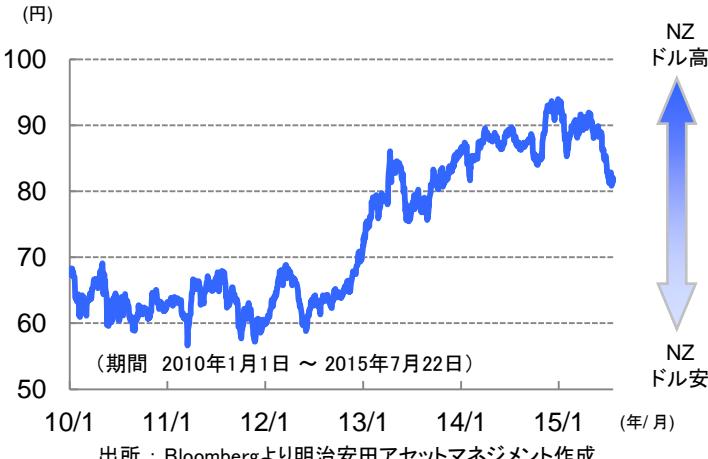
また、中国の金融緩和策等各種政策対応、主要中央銀行の金融緩和策の継続、グローバル景気の回復に加え、商品市況の下落に歯止めがかければ、ニュージーランド・ドルを下支えしていくものと見込まれます。加えて、中期的に回復が見込まれる物価動向や住宅市場の過熱も踏まえると、今後の追加利下げの幅は限定的になると見込まれ、長期的には安定していくと考えています。

《ニュージーランドの政策金利の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《ニュージーランド・ドルの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧説を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。